＜先週の説教から＞

『イースター礼拝―
目覚めていても、眠っていても』

イザヤ書　５９：１７～２１　　武田真治 牧師

テサロニケの信徒への手紙　Ⅰ、５：７～１１

イースターの喜びに包まれて、私たちに新しい命を与えて下さる、主の祝福と恵みに感謝しながら、新年度の歩みを共に始めて参りましょう。その思いを持って本日は「テサロニケの信徒への手紙」からご一緒にみ言葉を聴きましょう！

このテサロニケの信徒への手紙は、伝道者パウロが書いた手紙ですが、彼の他の手紙とは大きく異なっている部分があります。それは「死（＝サナトス）」という言葉がほとんど出てこないという点です（日本語訳では今日の箇所のように「死ぬ」とか「死者」が出て来ますが、原語はサナトスではありません）。ローマの信徒への手紙には 20 回以上、コリントの信徒への手紙でも 20 回近く、また、彼が書いたのではないヨハネの黙示録でも 14 回使われているにもかかわらず。

従って、この手紙では、パウロは敢えて「死」という言葉を避けていると言い得るのです。それが最も顕著なのは４章 13 節等で「既に眠りについた人たち」と書いている点です。これは明らかに「死んだ人」のことですが、それをわざわざ「眠り」と言い直しているのです。なぜでしょうか？　それは、テサロニケの教会の信徒たちが、必要以上に「死」を恐れていたからではないかと考えられています。

この教会は確かに最初、パウロとその同僚シラスが開拓伝道をして創設された教会でしたが、そこに住むユダヤ人たちの妨害と迫害によって、数か月しか指導できなかったのでした。その後、様々な伝道者が訪れ、特にユダヤ教の影響を色濃く持った指導者が教会を牧会した結果、多くの者が「死」は神様の裁きを受ける恐怖の時であり、すべてが終わる、まさにデッド・エンドだと考えていたのでした。ですから、一方ではその死が来るまで好き勝手に生きようとする者達も現れたのでした。故に、パウロは敢えて「死」という言葉を使わず、むしろイエス様を信じて生きた者は、復活させてもらえる時を待つ「眠り」だと終始、この手紙で書くのです。今日の聖書の箇所でも「神はわたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いあずからせるように定められたのです」（９節）とパウロが語る理由がここにあるのです。イエス様の十字架の死と復活を信じることで、恐ろしいと感じている死から解放されるのだと。それこそ私たちにとって、喜びの福音であるのだと。

更に、イエス様の復活によって私たちに与えられる、もう一つの喜びの福音は「主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです」（10 節）と伝えてくれています。この「眠っていても」が単なる睡眠中であるということではないことが今までのことからお分かりになると思います。これは「たとえ、この世から去っても」という意味であり、死の向こう側に、み国でイエス様と「一緒に生きる」時が待っている、備えられていることを明確に教えてくれている、イースターのメッセージなのです。

＜武田より＞・礼拝にて、聖書や説教、何より聖霊の刺激を受けないと、自分がどんどん埋没して行くように思う最近です！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

◉聖書研究・祈祷会 Ⅰ.　４月１４日（水）20：00
Ⅱ.　４月１５日（木）10：30

聖　　書：　エゼキエル書
祈祷主題：　婦人会を覚えて
担 当 者：　（水）保坂　　（木）木村
祈 る 人：　浅井さん　　東さん

【教勢報告】

主日礼拝　男 19　女 66　計 85
祈祷会　Ⅰ.　男　5　女　3　計 8
祈祷会　Ⅱ.　男　3　女　8　計 11
日曜学校　幼稚科 12　小中科　19　計 31

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　４月　１８日（日）

聖　書：　エレミヤ書　５１：４１～４５
ヨハネの黙示録　１８：１～８
説　教：　「黙示録 53 ― 大バビロンが倒れた」
武田真治 牧師
讃美歌：　５８、３２、４７５、５２８、８８

【次週当番表】

司式：飯田長老 奏楽：須田 礼拝：茨木長老
献金：三箇　杉村　　受付：鈴木　橋本
会堂準備：小杉　富澤　長田　橋本
北條
看板：土門圭　週報：吉岡　お花：羽倉

【次週集会予定】　礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：オリブの葉編集委員会　日曜学校教師会

No. ６２－１５

週　報

2020 年度　教会標語

「信仰に支えられて、共に生きよう！」

２０２１年　４月　１１日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/